

第8章 河道特性

8-1 河道の特性

(1) 上流部(源流～赤瀬ダム)

梯川の上流部は、鈴ヶ岳を水源とした大日山連峰から山間部を流下し、赤瀬ダムに至るまでの区間である。河床材料の代表粒径は500mm以上、河床勾配は1/10～1/60程度となっている。川幅は狭く、蛇行している。



赤瀬ダム(河口より27km)上流付近

(2) 中流部(赤瀬ダム～鍋谷川合流地点)

梯川の中流部は、赤瀬ダムから山間部を流下し、能美・江沼丘陵に入り、金野町で東より郷谷川、軽海町で同じく東より滓上川、仏大寺川を合流し、軽海町を出て流れを西に転じたあと、鍋谷川と合流するまでの区間である。

当該区間は河道特性により2つの区間に分割される。

【区間1(赤瀬ダム～仏大寺川合流地点)】

河床材料の代表粒径は80mm、河床勾配は1/150～1/380程度となっており、河道内には単列砂州が見られる。川幅は狭く、蛇行している。



御茶用水頭首工(河口より12.2km)付近



滓上川合流部(河口より10.7km)付近

【区間 2 (仏大寺川合流地点～鍋谷川合流地点)】

河床材料の代表粒径は 33mm、河床勾配は 1/670 程度となっており、河道内には単列砂州が見られる。区間 1 と比較して川幅は広く、蛇行している。



荒木田大橋(河口より 9.2km) 付近



鍋谷川合流部(河口より 7.5km) 付近

(3) 下流部(鍋谷川合流地点～河口部)

梯川の下流部は、手取川と梯川とによって形成された扇状地を西に蛇行し、八丁川を合流しつつ水田地帯、小松市街を貫流し、河口付近で木場潟より流れ出る前川を合流して日本海に注ぐまでの区間である。河床材料の代表粒径は 0.82～6.5mm、河床勾配は 1/4,500 程度となっており、中・上流部と比較し非常に緩い勾配となっている。川幅は広く、河道は直線となっている。



城南橋(河口より 1.3km) 付近



河口部付近

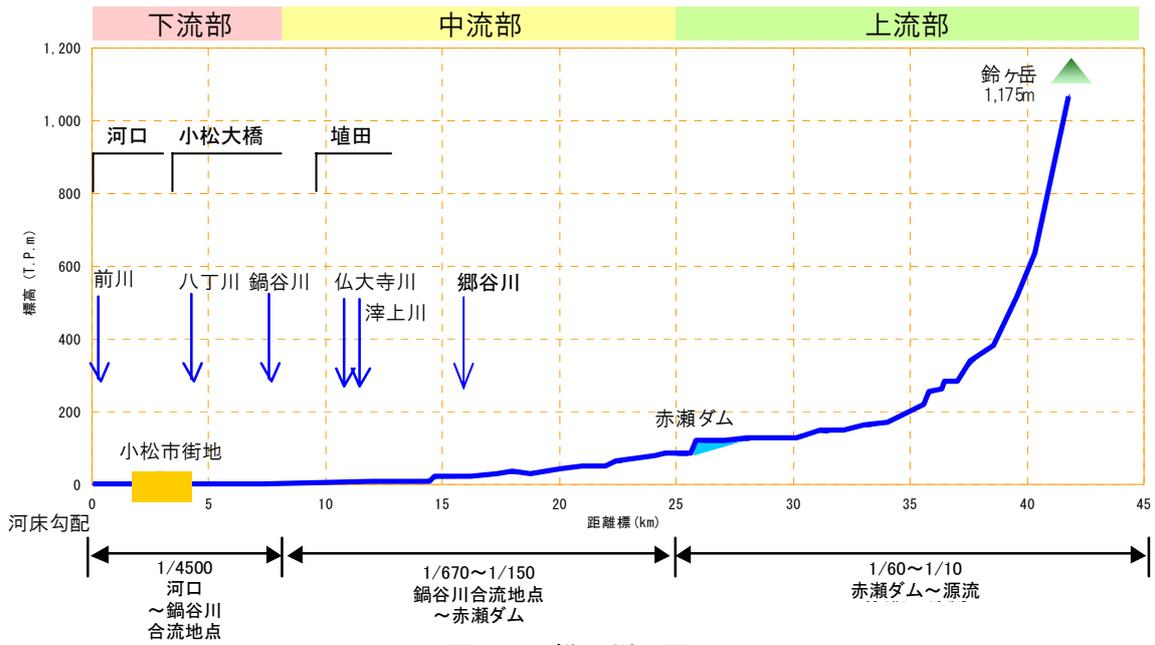


图 8-1 梯川縦断面図

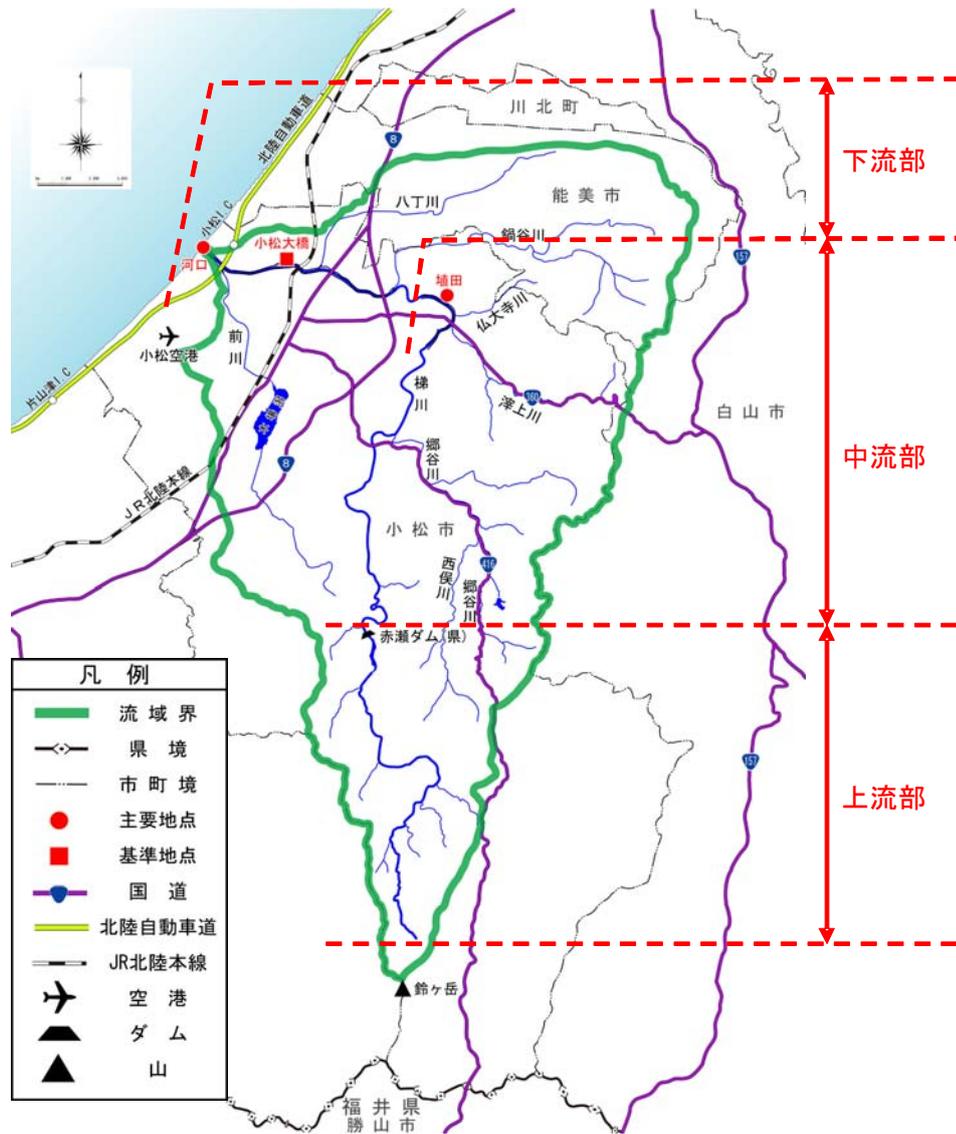


图 8-2 梯川水系河道特性区分图